



津田硝子株式会社

代表取締役 / TSUDA SHINSUKE

津田 慎介さん

ガラス屋が目指す 持続可能な社会の実現

現場と一体となり、
ワンストップで
空間の魅力を引き出す

当社は私の祖父が元々働いていたガラス屋から独立し、1959年に創業しました。同年の伊勢湾台風の際には自転車の荷台にガラスを積んで近隣の家々のガラスを交換したそうです。その功績が認められ大手セネコンと取引を開始し、1965年には本社を現在の天白区二つ山に拡張移転しました。その後も徐々にご愛顧いただける会社様が増え現在の津田硝子の基盤ができたと言えます。
60年以上にわたり名古屋を中心

築・改修をはじめとしたガラス工事を行ない、デザイン性・機能性を備えた高品質なサービスを提供しています。職人を外注しているガラス屋が多い中、自社で経験豊富な職人を雇用しているため迅速かつ丁寧な対応が可能となっています。また他社と同じ現場で協業することが多く、社外の職人さんとも強固なネットワークを持っていることも当社の特長です。

新規事業で、
ガラスにもう一度輝きを

私は大学卒業後、関東の自動車ディ

3年目の昨年1月に代表に就任しました。大学卒業時は当社を継ぐことは考えていませんでしたが、「町のガラス屋」になったことで廃材の現状を目の当たりにし、アップサイクルという形でSDGsへの具体的な取り組みができたと思っています。今後も常日頃から「ガラスで何ができるか」を考えていきたいですね。

様々な交流・連携で
“持続可能な社会”を

現在事務所の2階を改修しており、廃棄されるガラスを活用したラボが今夏に完成します。今後はそこで設計士の方々との協業や、異業種交流、産学連携を推進する場にしていきます。また、廃棄されるガラスを別の建築物に使用する「究極のアップサイクル」を実現したいと考えており、その建築物自体を様々な種類でのアップサイクルを推進する施設として運営していきたいとも思っています。さらに大学時代にオーストラリアへ留学し、現地の方と盛んに交流していた経験も活かし、外国人観光客に訪れてもらえるような施設も「廃材を使って」造ってきたいです。

基盤となるガラス工事業者としての誇りを持ちつつ、このような新規事業を融合した「夢のある働き甲斐を実感できる企業」を目指していく決意です。



ガラス工事(写真上)では、お客様のご希望に沿ったガラスを提案し、実際の施行まで丁寧なサポートを行なっています。ガラスに接している機材(吸盤)は、本誌の表紙で私が手に持っているものになります。また、自社ブランド「gl+」(写真左下)は「光」の意味を持つ「gl」が語源となっています。今後もマルシェなどに数多く出展し知名度を向上させ、ガラス業界自体にも新たな光を当てていきたいと思っています。

Column

愛用のアイテム紹介 /

Surface



打合せなどが多く出先で仕事をする事が多いため、PCをいつも持ち歩いています。この1台で関係者への連絡や施行管理、資料作成などを行っています。

Company Data | 会社概要

津田硝子株式会社
TSUDA GLASS. Co., Ltd.

津田硝子株式会社

【創業】1959年
【所在地】名古屋市天白区一つ山1-2
【TEL】052-801-1195
【URL】https://tsuda-glass.jp/
【事業内容】ビル、マンション、ホテルなどの建築物における硝子工事



当社に入社して最初の1年は職人、その後営業・現場管理をしつつ経営を学び、